

うたごえは平和の力

# 安保破棄・全面軍縮のうたごえを 国 の すみすみに

# うちごえ新聞

編集 日本のうたごえ  
実行女員会  
発行 うたごえ新聞社  
東京都新宿区  
西大久保3の67  
電 話 5220-1

1ヶ月 30円(元共)  
3ヶ月 90円、6ヶ月  
180円、1年350円

皆様大変御苦勞様でした。一九六一年日本の大祭典の大成功は、皆様が日々奮闘された結果です。特に中心合唱団の倍加活動の達成、三昧のうた会の実現が日本のうなづき運動の質を強めていることに感激し、うれしく思います。皆様と同じ気持ちでいます。中国文化友好代表団の方も非常に感動して、日本へ来て一番感激の一日だったと云われ、皆様よろしくおつとめいたしました。

今年の祭典は、「国民のいのち新たな前進をたどるに咲かせよ」のスローガンの下に、歴史的安保反対大斗争に統いて、政暴法、合理化、基地反対の斗い等の日常の斗争、活動が祭典に豊かに実ったと思います。中心合唱団の倍加活動の成功によって祭典参加者が拡大したこと、非常に多くの立派な創作曲が生れたこと、そしての中でも、確かな歌い方を身につけて来ています。内容にござわしい技術を各合唱団が身につけて来たことは将来に非常に大きい希望をも与えました。今までの音楽を司継していくこと、活動と音楽を通じて新しい内容にござわしい必要な技術向上をみ出し、獲得したことです。拡大していく中のこのような成長をみて、これは深き意義が含まれています。

中央合唱団・全国合唱団合同の訪中公演も大きなその影響を今日の成功にもたらしておられます。公演準備の為の国内公演旅行、一ヶ月の合宿準備学習、更に一ヶ月の中国における公演、帰国後日本全国への巡回公演は少數の訪中合唱団の活動を全國的な関心と共同の工作に立てただと思思います。全国中心合唱団一千三百名の大合

の活動家の紹介して頂いていた次の筆にして表記したいと思います。  
「のちに、更にたゞやめしは、一劃を拡大するのは困難だと云  
うのが、云いかえれば、一劃をやする意」それだけの活動家がいれば出来るものだと  
思ひます。まだまた空白が多いのですが、以上の提案を来年の課題として、運動  
をもつと平和の為に撲げましよう。農村にさわもれている玉を、労働者の立場に立  
つて発展させましよう。重ねて皆様、御苦勞様でした。一九六一年を元氣で希望し  
みちておまか。

唱「日本の夜明け」の成功ぶりについては明らかに実現されたと思います。来年は日本あいだより祭典の十周年を迎えるが、十周年を記念して次の事を提案したいと願います。



英國の皆様  
新年おめでとう  
こと、どうぞ

參加者十七員名 參加員名三十四

# 1961年 日本のうたごえ祭典特集

田一齋續編

理一大音樂會（九日・十日東京都体

戯じと生活か千人草の金を

三

「一九六一年日本のうた」  
典は、安保費のうたで、  
更に喜んで、日本を立派のところ  
のスローガンの下で、十一月四日  
から十一日迄西日本、全国三三三  
の仲間が参加し、東京で開催  
した。祭典は安保・三社を中心  
た国民の歴史的な闘いに引続  
政義法、合理化、基盤反対の  
等の国際的前進が書かれて、主  
国の仲間達の一年の活動が主  
題と挿された。

団体、初めて唐別・地域合唱団を  
を中心合唱団に分れて発表会が行な  
われ、中心合唱団は譲蘭歌がもう  
られた。発表会は特に中央合唱団  
の倍加活動の成果が反映し、演  
面の前進が見られる東武信用金庫  
たう会等の職場・地域のうたじ  
の典型が示された。(詳細は)  
掲載)

化反対「地底の歌」等、発表された  
た歌は、いずれも集団の創作活動  
から生れ、日常の闘つて伸びつ  
てうたいひられた歌が發表され  
れ飛躍的發展への力が示された。  
農村のうたえ（十日久保講堂）  
参加者二三百名、参加団体は十  
団体、今年は、努力が実り画期的  
前進が示された。福島、新潟、鹿  
児島を中心団、農村のうたえを  
会が農民の鬪いと生活に結びつ  
たうたご、郷土良諦の正しい戀  
が轟かせられた。

館) 参加者は両日併せて十地万、三四産業、それに母親・子供・高校生などを含めて三万名。来賓として、フュードレノン・コーン連大使夫妻、訪日中国文化友好代表团全員、ソ連のバリントン歌手ミャボーリ・ニコラ氏、その母ソ連、イング・ネスニヤ・アルガリヤなど、多くの来賓が参加された。初参加は港澳のうだぬ。安保長対大闘争の成果が、祭典参加者の拡大と内容をうたいあげる意義の創造となつてうなづき花開いた。職場の様子な

始めてした聴場のうたで、中央合唱団の中国訪問公演記念演奏に、そして十日、訪日中国文化友好代表团歓迎の大拍手にて示され、特に陳先生指揮、一千名の中心合唱団、労働者合唱団による「日本」の表朗誦は、はつきりしないが、國民の創造と一九六一年へのうだうえの發展の意に決意が高いかにいたれ、今後合唱交響曲のうたえが夜寝に高ひきわからず、来年の再会を誓い合つて閉幕した。

日本を平和のとりでに築こう！